

令和3年度前半ユウスゲと貴重植物を守り育てる会 活動経過報告

令和3年7月20日

1 獣害防止ネットの設置 (3月19日、24日)

冬期間引き下げておいたネットを引き上げ、併せて破損しているネットの修繕を行った。

3合目：5か所、2合目：1か所 従事者 延べ11名



2 獣害防止ネットの定期点検、補修作業 (4月以降 毎週1~2回)

ニホンジカの執拗なアタックからネット内の植生を守るため、週1~2回、設置したネットの点検と破られている個所の補修を行った。三合目登山道の東側の獣害ネットを一部拡張した。

ネット内の観察路の草刈りやササやススキの刈り払い、植物の説明板を設置した。

月毎の作業延べ人数

	4月	5月	6月	合計
作業人数	13人	19人	29人	51人



3 豊かな植生の魅力と生態系の課題に関する情報発信

(1) 「伊吹山花だより」の発行

季節ごとの花の紹介、伊吹山の魅力、生態系の危機の現状などを記載したチラシを4月~7月の毎月発行(第52~55号 各1,500枚)し、市内の公共施設、伊吹山インフォメーションセンターに配置するとともに地元集落に全戸配布した。(別添チラシ参照)

(2) 三合目植物観察会の実施

植物観察会を新型コロナウイルス感染症対策実施の上、5月23日、6月27日(同10名)に実施。ネット内はほぼ例年通りの花が確認できたが、ネット外ではほぼニホンジカの忌避植物のみの確認

に止まっている。(4月18日は雨天中止)

①5月23日 一般参加者 15名

【観察できた花】 アマドコロ、アヤメ、イブキノエンドウ、ウスバサイシン、ウマノアシガタ、エゾノタチツボスミレ、エゴノキ、エビネ、オドリコソウ、クルマムグラ、ゲンノショウコ、コナスビ、スマレ、ニョイスミレ、ヒメハギ、フタリシズカ、ホタルカズラ、ヤマハタザオなど18種

②6月27日 一般参加者 10名

【観察できた花】 アキノタムラソウ、イブキトラノオ、イブキノエンドウ、イブキフウロ、イワガラミ、ウツボグサ、エゾフウロ、オオルリソウ、オカタツナミソウ、オカトラノオ、カナビキソウ、カラマツソウ、キバナカワラマツバ、キバナノレンリソウ、クサフジ、クサボケ、クモキリソウ、クララ、クルマバナ、コウゾリナ、コナスビ、ササユリ、スズサイコ、タカトウダイ、タツナミソウ、テリハノイバラ、ナワシロイチゴ、ニガナ、ノアザミ、ハシドイ、ヤマタツナミソウ、ヤマボウシ、ユウスゲなど33種

(3) 学校学習

6月24日 伊吹小学校4年生伊吹山学習(伊吹山インフォメーションセンターで説明)

4 登山道の安全確保対策

(1) 会員有志による伊吹山登山道の規制ロープの確認と補修

3月11日、4月11日、6月6日に5合目から9合目に設置してある登山道の規制ロープ、鉄杭の補修を実施。降雪、登山者の引っ張り、ニホンジカの引っ掛かり等による鉄杭の抜けや曲がり、ロープの切断など損傷が目立った。特に獣害による斜面の裸地化と大雨による土砂流出による石や岩の不安定化(多数の浮石)のため、登山道の落石のリスクが極めて高まっている。(別添伊吹山花だより第54号令和3年6月号裏面参照)



5 今後の予定

(1) 獣害防止ネットの定期点検、補修作業

7~9月 毎週1~2回実施。 10~11月 ネット内ススキ全面刈取り 11月ネット引き下げ

(2) 「伊吹山花だより」の発行 8~9月号発行予定

(3) 三合目植物観察会 7月23日 ユウスゲまつり 8月22日、9月26日観察会実施

(4) 学校学習 市内小中学校の環境学習支援

(5) 会員有志による伊吹山登山道の維持、安全確保対策 7月以降、順次実施

伊吹山花だより

上野区：ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

梅雨の合間を見逃さないで in 伊吹山

令和3年の梅雨はこれまでになく早く始まりました。ニホンジカによる食害で荒廃した斜面が梅雨の大雨によってさらに崩壊しないかと心配です。

皆さん、落石には十分注意して、三合目や頂上に咲く花々を見ながら登山を楽しんでください。

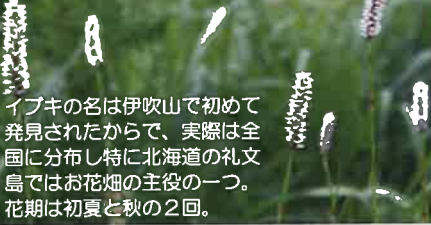


ササユリ(笹百合)

日本の特産種。細い葉を笹に例えてこの名に。種子が地上発芽するまで2年、開花までは7年以上もかかるが、三合目のネット内では増えてきた。

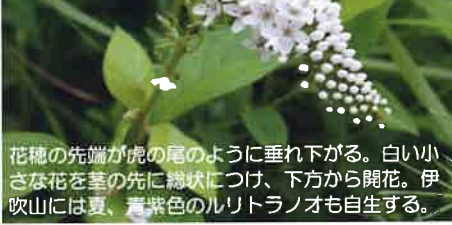
三合目～中腹で待ってます。

イブキトラノオ (伊吹虎の尾)

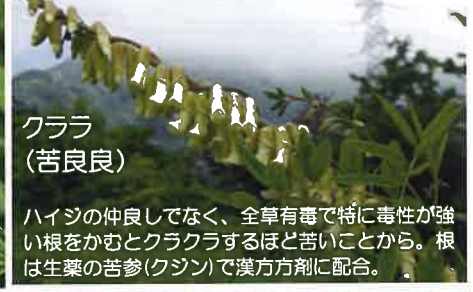


イブキの名は伊吹山で初めて発見されたからで、実際は全国に分布し特に北海道の礼文島ではお花畑の主力の一つ。花期は初夏と秋の2回。

オカトラノオ (丘虎の尾)



花穂の先端が虎の尾のように垂れ下がる。白い小さな花を茎の先に繡状につけ、下方から開花。伊吹山には夏、青紫色のルリトラノオも自生する。



クララ (苦良良)

ハイジの仲良しでなく、全草有毒で特に毒性が強い根をかむとクラクラするほど苦いことから。根は生薬の苦参(クジン)で漢方剤に配合。



オオナルコギリ (大鳴子百合)

ナルコギリの大型種。茎の高さは1m前後に、下向きに垂れ下がった花の様子を鳴子に見立ててこの名に。根茎は漢方の「黄精」で滋養強壮に効能。



キバナハタザオ (黄花旗竿)

石灰岩の山地に生え、全国的には稀に見られると言われ絶滅危惧種指定の県も多く、滋賀でも分布上重要種とされるが伊吹山では多い。



キバナレンリソウ (黄花の連理草)

欧州原産で日本では伊吹山に自生する。1568年(永禄11年) 織田信長がポルトガルの宣教師に薬草園をつくらせた時に紛れて帰化した種とも言われている。



イブキガラシ(伊吹芥子)

ヤマガラシの一種。2年程前はシカの食害後の中腹に異常繁殖し一面黄色く染めたが、斜面は大雨でさらに荒廃しその光景も見られない。



イブキタイゲキ(伊吹大戟)とも言い、花は壺型で杯状花序。白い樹液にはサポニンが含まれる有毒植物。根は大戟と言われ中国の民間薬に。

タカウダイ (高燈台)



イブキノエンドウ (伊吹野豌豆)

伊吹山と北海道に帰化した欧州原産の多年草。キバナレンリソウ、イブキカモシグサとともに信長の薬草園伝説を裏付けるものと言われる。



ヤマタツナミソウ (山立浪草)

伊吹山にはタツナミソウ、オカタツナミソウもある。これら2種は茎から出た花が根元で直角に曲がり上を向いて咲くが、本種は約60度曲がり30度程傾いて咲く。



エゾフウロ (蝦夷風露)

北方系の花で伊吹山辺りまで分布。ハクサンフウロ、イブキフウロの母種。他の2種と比べ花柄、ガク、葉柄に開出毛が密生する。



ノアザミ(野薊)

伊吹山で最初に咲く薊。他にミヤマアザミ、コイブキアザミ、イブキアザミ、イブキヒメヤマアザミなど伊吹山に自生する薊は多い。

山頂辺りで迎えてくれます。



ガンナイフウロ (郡内風露)

北海道から伊吹山まで分布し、8合目以上で見られる。郡内は山梨県南東部の都留郡に由来。茎の先端にまとまって咲く紅紫色の花が美しい。



クサタチバナ (草橋)

関東以西に分布。8合目以上で見られる。ガガイモ科だがミカン科のタチバナの花に似ておりこの名に。



コバノミミナグサ (小葉の耳菜草)

伊吹山の特産種。石灰岩地を好む。ミミナグサに比べ花が大きく花弁がガク片より長い。葉が小さい。平成15年同じ石灰岩地の山口県秋吉台鉱山跡でも発見された。



獣害による植生衰退・裸地化した斜面に異常気象の大雨が降って土砂が流出。斜面には不安定な岩がゴロゴロ。特につづら折りの登山道では落石をさせない！そして落石に十分に気をつけましょう！

伊吹山トピックスその2 「風と霧、かつては豪雪の山、そして石灰岩の山」

標高1,377mでも積雪量の観測記録11m82cmで世界一！



1927年2月14日山頂で積雪量11m82cmを観測し現在も世界一。ちなみに昭和56年の56豪雪時は8m20cm。



山頂の日本武尊像についてのエピソード
2020.12.27

3億年前は南の海の海底火山だった

海底火山にサンゴ礁が出来て石灰岩に

だんだん北に移動し、1.5億年前に隆起した伊吹山。だから、海の生き物の化石が多く、良質の石灰岩を産出して地域の暮らしを支えた。



フスリナの化石

3億年前の生き物、フスリナ

山頂の平均風速8.3m/sも。霧や雲に覆われる日は年間300日も！



伊吹山は独立峰で、冬は日本海からの北西の風、夏は伊勢湾からの南東の風が強く吹くなど雲や霧が発生しやすい。平均風速は冬は10m/s、夏は7m/sと風の強い山。



冬：北西の風
夏：南東の風
伊吹山1,377m

多くの雪が降り、風が強く雲や霧に覆われる日が多く、また石灰岩の山という自然環境の伊吹山は他の要因も相まって、植物や動物が住みやすい環境を形成してきた。



伊吹山の石灰岩採掘場

伊吹山で観察できる石灰岩質を好む主な植物

イチョウシダ、ヒメフウロ、クサボタン、イブキシモツケ、イブキスミレ、セツブンソウ、ヒロハノアマナ、コバノミナグサ、カタクリ、イワツクバナ、ウツギ、ヤマシャクヤク、キバナハタザオ、イブキコメグサなどは伊吹山で自生する石灰岩質を好む植物たちです。



イチョウシダ (銀杏羊歯)

クサボタン (草牡丹)

イブキシモツケ (伊吹下野)

ヒメフウロ (姫風露)



5月23日植物観察会実施

参加者：15名
梅雨の晴れ間の爽やかな日でした。



アヤメ (綾目)



エソノタチツボスミレ (蝦夷の立坪草)

6月の植物観察会のご案内

- 開催月日:6月27日(日) ○定員:20名
- 集合場所:旧伊吹山ゴンドラ山麓乗り場前
集合時間:10:00 解散:12時半頃山麓で。
- 参加料金:500円(入山協力金含む)
- 申込み:下記の当会の会長または副会長まで電話で。
- 新型コロナウイルスの感染状況により中止の場合もあり。

7月ユウスゲまつり予告

- 開催月日:7月23日(祝)
- 新型コロナウイルスの感染防止のため規模を縮小して実施予定で現在詳細検討中です。なお、感染状況により中止の場合もあります。



ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

会長 高橋滝治郎
副会長 堀江 寛

TEL 090-3286-8191
TEL 0749-58-1323